

「家がいいね」 第145号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2016. 6. 3

猫にも覚悟がある

吾輩の名前はトム。誕生

日は、2002年7月4日、なぜか或る国の独立記念日に重なる。母は決意を持って天敵の老婆の隙を狙って、居室の押し入れに飛び込み、吾輩ら3匹を産み落した。

爾来、5人娘に可愛がられ、家主には在宅開業すぐで縁起が良いと思われてかこの家の飼い猫となった。



母は19号に登場、吾輩も26号でデビュー。31号では添い寝姿を。一匹猫となつて53号、94号、127号と勝手に写真掲載された。骨折で命からがら帰宅、ヒト並みに手術や輸血も受けさせられた。この歳になり食欲体重ともに細り、所かまわず寝る姿をパソコンにも見透かされたようだ。水も吐くのではと、家を出たのが日曜朝。誰が呼んでも、もう帰らないよ。

弔辞…トムくん、いつの間にか追い越された気持ちだ。家族としてオス同士、夜更けての会話もあつたなあ。分かり合える感覚が不思議だった。貴方の光る瞳は花緑青色。猫の一生と覚悟を映し出す色合いだった。望んだ樹の下に居るのかな。

沖縄の人の目を借りて、見える日本

オバマ大統領サミット来日を追いかけると米国と日本の関係も見えてくる。開催前に大統領専用機は横田基地に降りベトナムへ飛び立った。次にはセントレアに降り、専用ヘリ、装甲車より頑丈な特別車両を使う。広島からのお帰りは岩国基地からと、まことに自由自在に基地が使われている。日米地位協定によれば、米国軍人にはパスポートは要らない。日本人の基地出入りは身分証明書を要する。日本の中に米国、それも軍事基地があり、戦争にも直結する。沖縄の人は日常的に過密環境に甘んじているが、私達は見えなくされている。

さて、ゆっくり病気のことも考えますか

百歳をはさんだ二人の対談での話題ですが、幸福とか健康と言っても確証はないものだ。

幸福とは「幸福感」と言い、自分が感じるもの。病気を持っても「健康感」がある人は健康人と考えよう。

私もそのような感じで互いにお話する風変わりな外来を作ろうかと考え中です。名づけて「がん対話外来」、樋野興夫先生のがん哲学外来を基に、想像を逞しくしています。



映画「つむぐ」と在宅医・船戸先生の講演

みえ生と死を考える市民の会18周年記念講演会

講師 船戸崇史さん(岐阜県在住)

「在宅医が看取りの中で考える」

7月24日(日) 13時~16時

津市 アスト津4階ホール(津駅東口に隣接)

一般1000円 会員500円 前売券は当院で



自宅での人生を
最期まで支援します

〒516-0805
三重県伊勢市御園町高向 927
電話 0596-20-8104
ファクス 0596-20-8105
メール homecare@kr.tep-ip.or.jp
ホームページ <http://isezaitaku.com>

↑バックナンバーはここで閲覧可